

ユース非核特使フォーラム武井外務大臣政務官挨拶
平成 28 年 12 月 11 日（日曜日）

本日、長崎県・長崎市の皆様に御協力いただき、国連と共催して、ユース非核特使フォーラムを開催できることを、心から嬉しく思います。映画「母と暮せば」の上映に当たり御協力いただいた松竹株式会社や国連広報センター、会場設営に御協力いただいた長崎大学を始め、準備に御協力いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。

被爆者の高齢化が進む中、唯一の戦争被爆国、日本としては、被爆者・被爆地の思いをしっかりと後世に受け継いでいく必要がある。そう考え、2013年に岸田外務大臣の下で、「ユース非核特使」制度が立ち上げられました。そして、本年3月、その思いを国境も越えて更に広げていくためには、「ユース非核特使」制度を世界の若者にも広めていくべきとの考えの下、「ユース非核特使」の国際ネットワーク構想が発表されました。それから約9か月で、新たに67名の方に「ユース非核特使」を委嘱しましたが、そのうち18名は海外の若者です。これまで174名のユース非核特使の方に活躍いただきましたが、世界各地で、若者が「核兵器のない世界」に向けて立ち上がり、様々な取組を行っていることを、心強く思います。

「核兵器のない世界」の実現には、核兵器国と非核兵器国の協力が不可欠です。明日から行われる国連軍縮会議では、その協力の在り方を含め、今後の核軍縮の進め方等について、核兵器国も含む約30の国・機関から専門家が出席し、議論を行います。そのプレイベントとして行われる本日のフォーラムには、被爆国である日本と、核兵器国である米国、ロシアから若者が出席しています。この被爆地長崎で、「核兵器のない世界」という未来に向けての皆さんの議論が、明日以降の国連軍縮会議の議論につながることを心から願っています。

71年前の8月9日、原爆は皆さんと同じ若者の夢や希望も一瞬にして奪ってしまいました。そのような歴史を忘れないため、ここ長崎では、これまで『微力だけど無力じゃない』を合言葉に、若者が平和に向けて取り組んできました。若い皆さんの取組一つ一つは、必ず、「核兵器のない世界」という未来に繋がっていきます。皆さんの今後の取組に期待すると共に、私も引き続き「核兵器のない世界」に向けて全力を尽くすという決意をお伝えし、私の挨拶とさせていただきます。